

予報期間 12月24日から12月30日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 26日は、オホーツク海で低気圧が発達し、日本付近は強い冬型の気圧配置となる。
- 27日は、日本の東と東シナ海に高気圧が移動する。
- 28日は、北日本を気圧の谷が通過する。高気圧が29日にかけて千島近海に移動する。
- 30日は、低気圧が日本海を北東に進む。

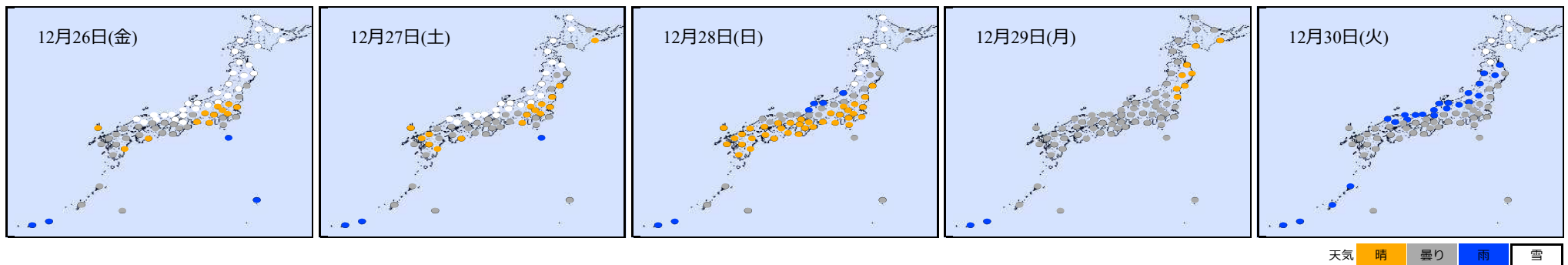
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 26日から27日にかけては、日本付近は強い冬型の気圧配置となるため、北日本から西日本にかけて荒れた天気となる。東日本日本海側を中心に大しけとなる所があり、冬型の気圧配置の強まりの程度等によっては警報級の大雪となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

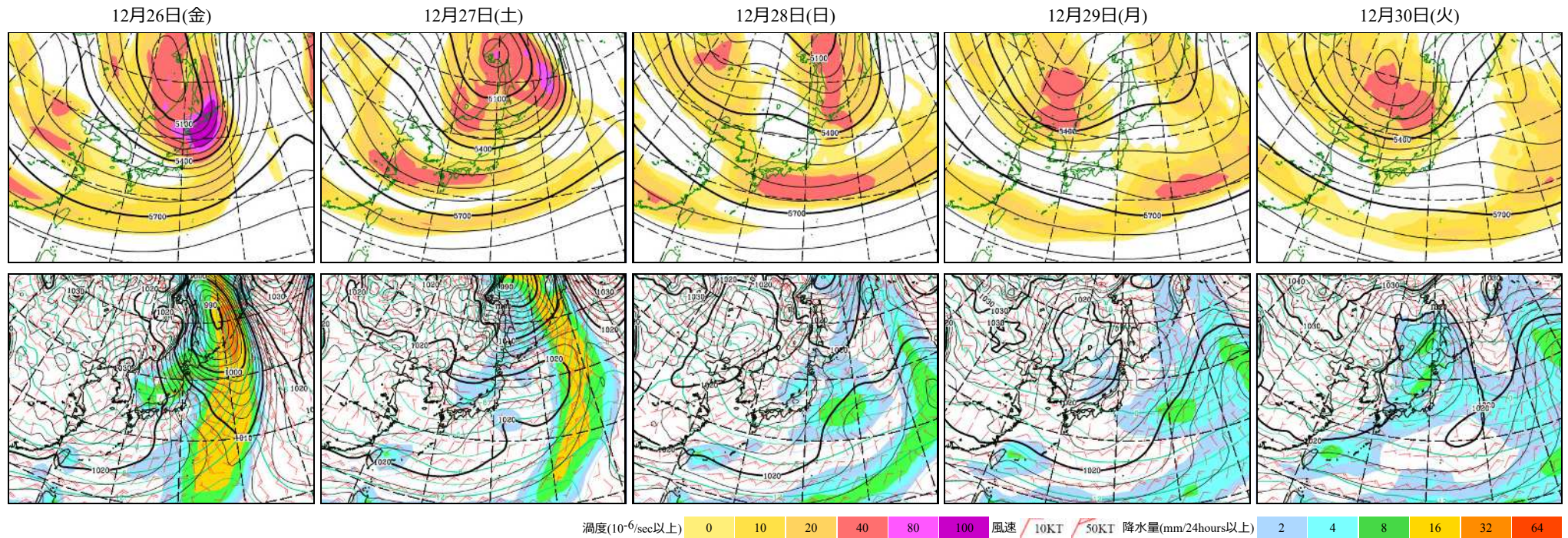
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

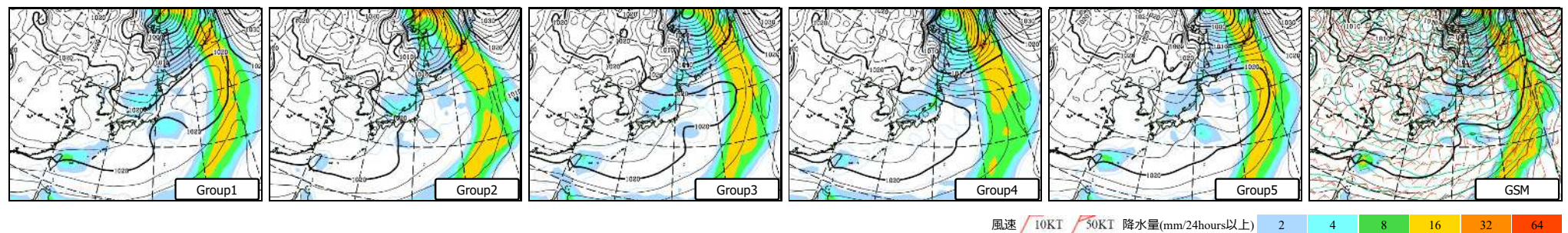


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 西日本太平洋側は、晴れる日もあるが雲が広がりやすい。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月27日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、26日に日本付近を通過するトラフが深くなり、27日に日本海に進むトラフも深くなった。28日は日本海に進むリッジが明瞭になった。地上の気圧配置の予想は、26日にオホーツク海に進む低気圧はより発達する予想になった。
- 各モデルともに26日のトラフがやや深くなった。また、27日に日本海にトラフが進む予想で揃ってきている。
- 27日は、海外モデルは伊豆諸島付近のシアー上に低気圧を予想している。ENSには、同様の予想をするメンバーが含まれている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。